

ベトナムにおける日本研究 ——東北アジア研究所の事例——

ゴ・フォン・ラン*

本稿は、ベトナムと日本が外交関係を正式に結んだ1973年以降のベトナムにおける日本研究史について検討したものである。日本研究を専門に行う国家機関として初めて設立された、ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所を事例に挙げ、日本研究の著書・雑誌・論文の内容や分野、研究方法などの考察を行う。ベトナムにおける日本研究分野の拡大と発展の変化を捉えるとともに、今後の課題についても明らかにする。

キーワード：ベトナム、日本研究、東北アジア研究所

1. ベトナムにおける日本研究の概観

1973年9月21日、ベトナムと日本は正式に外交関係を結び、ベトナムにおける日本研究分野は発展に向かって歩み始めた。しかし、ベトナムにおける日本研究が実質的に発展したのは、1990年代初頭に日本の対ベトナム政府開発援助（ODA）が再開されて以降のことである。

ベトナム最初の日本研究機関であるベトナム社会科学アカデミー（当時の名称は歴史・地理・文学研究班）は、1953年12月2日にベトナム北部のヴィエト・バック地方で設立された。1963年に当時の『歴史研究雑誌』に、グエン・ヒュー・トゥイ研究員による「第2次世界大戦後の日本の労働運動」と題した研

* ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所・日本研究センター 副所長

究論文が初めて掲載された¹。また、ベトナム経済研究所の『経済研究報告書』には、レー・ヴァン・サン研究員による「第2次世界大戦後の日本経済成長」に関する研究論文が、1968年、1969年、1970年の3年に亘り連続して掲載された²。

1973年に当時のベトナム民主共和国と日本が外交関係を樹立した後、ベトナム人の日本への関心はより一層高まった。ベトナム人の歴史研究者、文学研究者、経済研究者は、世界史における日本の歴史、世界文学における日本の文学、世界経済の発展における日本の経済事情などについて研究を開始した。

歴史研究所、経済研究所、アジア太平洋研究所（その後、アジア太平洋研究所は東北アジア研究所、東南アジア研究所、中国研究所の三つに分割）は、ベトナム政府に直属する国立研究機関として、初めて日本研究に注目した。日本に関する当時の有名な著書として、『日本経済・高度成長の段階』（レー・ヴァン・サン著、経済研究所出版、1988年）³、『桜と電化製品：日本文化の象徴』（ヒュー・ゴック著、文化出版社、1989年）⁴、『ファン・ボイ・チャウとドン・ズー運動』（チュオン・タウ著、歴史研究所、1990年）⁵、『経済大国・日本の歩んできた道』（レー・ヴァン・サン、リュウ・ゴック・チン共著、社会科学出版社、1991年）⁶、『近代日本』（ヴィン・シン著、ホーチミン市出版社、1991年）⁷などが挙げられる。当時、ほとんどの日本研究は、日本の経済成長や明治維新の政治的・社会的構造改革に着目していた。

1993年に、ベトナム社会科学アカデミー附属の日本研究センター、ハノイ国家大学附属人文社会科学大学の東洋学部および日本学科、ホーチミン市国家大学附属人文社会科学大学の東洋学部などの研究教育機関が誕生したことによ

1 本文中の文献の和文タイトルは、本稿の著者による翻訳である。原語であるベトナム語の著者名、タイトル等はその都度脚注に記す。Nguyễn Hữu Thuý, “Phong trào công nhân Nhật Bản từ sau Chiến tranh Thế giới lần thứ hai,” in *Nghiên cứu lịch sử* 53, 1963, tr.25-38.

2 Lê Văn Sang, *Báo cáo nghiên cứu kinh tế “Tăng trưởng kinh tế Nhật Bản sau chiến tranh Thế giới thứ hai”*, Viện Kinh tế Việt Nam, 1968, 1969, 1970.

3 Lê Văn Sang, *Kinh tế Nhật Bản giai đoạn thần kỳ*, Viện Kinh tế thế giới, 1988.

4 Hữu Ngọc, *Hoa anh đào và điện tử*, Văn hoá, 1989.

5 Chương Thâu, *Phan Bội Châu toàn tập*, Thuận Hoá, 1990.

6 Lê Văn Sang, Lưu Ngọc Trịnh, *Việt Nam đường đi tới một siêu cường kinh tế*, Khoa học xã hội (KHXH), 1991.

7 Vĩnh Sinh, *Việt Nam cận đại*, Nxb. TP. Hồ Chí Minh, 1991.

り、ベトナムにおける日本研究は急速に発展し始めた。その後現在に至るまで25年以上の歩みの中で、ベトナムにおける日本研究分野は多くの研究者を輩出し、多種多様な日本研究の成果を生み出していった。

2. ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所における日本研究

(1) ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所の誕生と現在の状況

東北アジア研究所（当時の名称は日本研究センター）は、1993年9月13日付の首相決定第466号に基づき設立され、現在まで27年間の道のりを歩んできた。

設立当初、日本研究センターに在籍した研究員はわずか10名に過ぎなかった。その後、2004年に同センターは東北アジア研究所へと昇格した。研究対象国や研究分野が拡大され、日本だけではなく、韓国、北朝鮮、モンゴルや台湾なども研究することとなった。一方、日本は東北アジア研究所が最も重要視する研究対象国と位置づけられ、現在に至っている。

東北アジア研究所には、四つの任務がある。第一は、東北アジアの国と地域の基本的な課題と時事問題について研究することである。第二には、ベトナム政府が政策を立案するにあたり科学的な根拠を提供することである。第三は、東北アジアの国と地域に関する知識をベトナムに普及させること、第四は、東北アジア研究所の研究員が各大学で講義を行い、東北アジア研究者の人材育成事業に貢献することである。

現在、東北アジア研究所には研究員とスタッフ計47名が在籍している。この中で、教授・上級研究員が2名、博士号を取得した研究員が14名、博士課程在学中の研究員が2名、修士号を取得した研究員が20名、そのほかは管理スタッフである。研究員の専門分野は、日本学をはじめ、韓国学、経済学、政治・安全保障や国際関係、歴史、宗教学、言語学、社会学など多岐にわたっている。ほとんどの研究員は英語、日本語、韓国語、中国語、ロシア語のいずれかの外国語に堪能である。このうち日本研究を行っている研究員は24名おり、研究所の研究員の約2分の1を占めている。

東北アジア研究所には、日本研究センター、韓国・北朝鮮研究センター、台湾・モンゴル研究センターの三つの研究センターがある。また、地域全体の課題に関する研究室も三つある。経済・国際統合研究室、政治・安全保障研究室と文化・社会研究室である。そのほかに、『東北アジア研究雑誌』編集室、図書室・国際交流室と総務室がある。

(2) 研究業績

東北アジア研究所が設立されてから約30年間に、日本に関する約120の著書や研究雑誌300号、2000本以上の研究論文が出版された。東北アジア研究所の研究員による代表的な著書として、以下のものが挙げられる。

日本研究の方法についての本は、『日本研究の方法論及び経験』（ズオン・フー・ヒェップ著、社会科学出版社、1995年）⁸や『みる・きく・しらべる・かく・かんがえる：対話としての質的研究』（伊藤哲司著、ゴ・フォン・ラン訳、ハノイ国家大学出版社、2014年）⁹などがある。

ベトナムにおける日本の政治・社会に関する研究の第一人者であり、東北アジア研究所の初代日本研究センター長を務めたズオン・フー・ヒェップ教授は、『日本の行政システム』（社会科学出版社、1996年）¹⁰、『日本とベトナムにおける社会福祉の課題』（グエン・ズイ・ズンとの共著、社会科学出版社、1996年）¹¹や『1945年から現在までの日本における市場経済システム下の富裕層と貧困層の区分について』（国家政治出版社、1999年）¹²などをまとめた。なお、ヒェップ教授は日本研究への顕著な貢献が認められ、日本政府より「令和2年春の叙勲」にて旭日中綬章を授与された。

日本の外交関係については、1990年代後半から2000年代初めにかけて、ゴ・スアン・ビン教授が、『日アセアン関係』（社会科学出版社、1999年）¹³、『越日関係25年（1973年～1998年）』（ズオン・フー・ヒェップ、チャン・アイン・フォンとの共編、社会科学出版社、1999年）¹⁴、『冷戦後の日本における外交政策』（社会科学

8 Dương Phú Hiệp, *Dương Phú Hiệp Chủ Tìm hiểu kinh nghiệm và phương pháp nghiên cứu Nhật Bản*, KHXH, 1995.

9 Ito Tetsuji, *Quan sát, lắng nghe, tìm hiểu, ghi chép và suy ngẫm: Nghiên cứu định tính thông qua đối thoại*, ĐHQGHN, 2014.

10 Dương Phú Hiệp, *Tìm hiểu nền hành chính Nhật Bản hiện nay*, KHXH, 1996.

11 Dương Phú Hiệp, *Một số vấn đề phúc lợi của Nhật Bản và Việt Nam*, KHXH, 1996.

12 Dương Phú Hiệp, *Phân hóa giàu nghèo trong nền kinh tế thị trường Nhật Bản từ 1945 đến nay*, Chính trị quốc gia, 1999.

13 Ngô Xuân Bình, *Quan hệ Nhật Bản - ASEAN*, KHXH, 1999.

14 Dương Phú Hiệp, Ngô Xuân Bình, Trần Anh Phương, *25 năm quan hệ Việt Nam - Nhật Bản (1973-1998)*, KHXH, 1999.

出版社、2000 年)¹⁵などの著書を記した。

一方、越日関係の研究を執筆するにあたり、各執筆者が単に過去の経緯と現状を分析するのみならず、将来の越日関係の展望と分析の視点を加えるようになったことは、新たな変化のひとつと理解される。加えて、昨今、日本の社会構造や越日間の二国間関係のほかに、日本の外交政策と、周辺諸国との関わりから捉えられる政策変化についての分析も注目されるようになった。具体的には、以下の著書が挙げられる。『越日戦略的パートナーシップの構築：その内容と道のり』（チャン・クアン・ミン、ファム・クイ・ロン共著、百科事典出版社、2011 年）¹⁶、『2011 年から 2020 年までの東北アジア地域における重要課題に対する各国の対応』（グエン・スアン・タン、チャン・クアン・ミン共著、社会科学出版社、2013 年）¹⁷、『中国の台頭と米国のアジア・太平洋地域への関与強化に直面する東北アジア地域の安全保障』（ホアン・ミン・ハン編、社会科学出版社、2015 年）¹⁸、『メコンサプリージョンに対する東北アジア各国の関与政策』（グエン・ティ・タム編、社会科学出版社、2015 年）¹⁹などである。

日本経済に関しては、1990 年代から 2000 年まで日本経済発展の成功および日本政府の工業政策、貿易政策やグローバル化の背景における日本経済の構造改革などについて研究が深まった。代表的な著書として、『比較優位理論：1955 年～1990 年における日本の商・工業政策への適用』（チャン・クアン・ミン著、社会科学出版社、2000 年）²⁰、『1990 年代の日越経済関係の状況と展望』（ヴー・ヴ

15 Ngô Xuân Bình, *Chính sách đối ngoại của Nhật Bản thời kỳ sau Chiến tranh Lạnh*, KHXH, 2000.

16 Trần Quang Minh, Phạm Quý Long, *Xây dựng đối tác chiến lược Việt Nam - Nhật Bản: Nội dung và lộ trình*, Từ điển Bách Khoa, 2011.

17 Nguyễn Xuân Thắng, Trần Quang Minh, *Chiến lược, chính sách của các quốc gia và vùng lãnh thổ Đông Bắc Á về các vấn đề nổi bật của khu vực giai đoạn 2011-2020*, KHXH, 2013.

18 Hoàng Minh Hằng, *An ninh Đông Bắc Á trước sự trỗi dậy của Trung Quốc và sự gia tăng can dự Châu Á của Hoa Kỳ*, KHXH, 2015.

19 Nguyễn Thị Thắm, *Sự can dự của các nước Đông Bắc Á vào tiểu vùng sông Mê Kông*, KHXH, 2015.

20 Trần Quang Minh, *Lý thuyết về lợi thế so sánh: sự vận dụng trong chính sách công nghiệp và thương mại của Nhật Bản 1955-1990*, KHXH, 2000.

ァン・ハー著、社会科学出版社、2000年)²¹、『グローバル化における日本経済の構造改革』（ヴー・ヴァン・ハー編、社会科学出版社、2003年)²²などが挙げられる。

現在は、国際的な経済統合や日本の経済改革により関心が集まり、『CPTPP協定の形成と東北アジア各国に対する影響』（ズオン・ミン・トゥアン編、社会科学出版社、2016年)²³、『日本のアベノミクス改革』（ファム・クイ・ロン編、社会科学出版社、2017年)²⁴などの著書が出ている。また、『東アジア地域経済統合における日本の役割』（社会科学出版社、2020年)²⁵と題する博士論文を出版したド・ティ・アインをはじめとして、若手研究員も台頭している。

日本の歴史・文化についての著書は、『日本文化の発展史』（ホー・ホアン・ホア編、社会科学出版社、2001年)²⁶、『ベトナム北部村落の郷約と日本の関東地方における村の規定』（ヴー・ズイ・メン、ホアン・ミン・ロイ共著、社会科学出版社、2001年)²⁷、『日本の伝統工芸品産業の保存と開発課題』（ホー・ホアン・ホア編、社会科学出版社、2004年)²⁸などが挙げられる。そのほかにも、東北アジア研究所が各研究員の研究論文を集めた特集号『東北アジア研究：文化・社会・環境』のシリーズは、2014年から毎年出版されている²⁹。また、国際シンポジウムの開催に合わせて、『ベトナムと日本との交流における歴史、社会、文化の諸問題』（チャン・クアン・ミン、ゴ・フォン・ラン共編、ハノイ国家大学出版社、2015年)³⁰

21 Vũ Văn Hà, *Quan hệ kinh tế Việt Nam - Nhật Bản trong những năm 1990 và triển vọng*, KHXH, 2000.

22 Vũ Văn Hà, *Điều chỉnh cơ cấu kinh tế Nhật Bản trong bối cảnh toàn cầu hóa*, KHXH, 2003.

23 Dương Minh Tuấn, *Sự hình thành Hiệp định Đối tác Xuyên Thái Bình Dương và tác động đối với các nước Đông Bắc Á*, KHXH, 2016.

24 Phạm Quý Long, *Cải cách Abenomics ở Nhật Bản*, KHXH, 2017.

25 Đỗ Thị Ánh, *Vai trò của Nhật Bản trong tiến trình liên kết kinh tế Đông Á*, KHXH, 2020.

26 Hồ Hoàng Hoa, *Văn hóa Nhật những chặng đường phát triển*, KHXH, 2001.

27 Vũ Duy Mền, Hoàng Minh Lợi, *Hương ước làng xã Bắc Bộ Việt Nam với luật làng Kanto Nhật Bản*, Viện Sử học, 2001.

28 Hồ Hoàng Hoa, *Vấn đề bảo tồn và phát triển nghề thủ công truyền thống ở Nhật Bản*, KHXH, 2004.

29 *Nghiên cứu Đông Bắc Á: Văn hóa - Xã hội - Môi trường*, Nxb.ĐHGQ Hà Nội, 2014, 2015, 2016, 2017.

30 Trần Quang Minh, Ngô Hương Lan, *Các vấn đề lịch sử - văn hóa - xã hội trong giao lưu Việt Nam - Nhật Bản*, Đại học Quốc gia Hà Nội, 2015.

などの紀要も出版されている。

図1からわかる通り、東北アジア研究所の研究者が執筆した本の中で最も多くを占めているのは、日本経済や日本のODAに関する本である（30%）。それに続くのは、日本の政治・社会（24%）、日越関係を含めた日本の外交関係（22%）、日本の歴史・文化・宗教（21%）に関する研究書である。すなわち、東北アジア研究所においては上記の四つの研究分野が重視されていると言える。一方、日本研究の手法についての本は少なく、全体のわずか3%に止まっている。

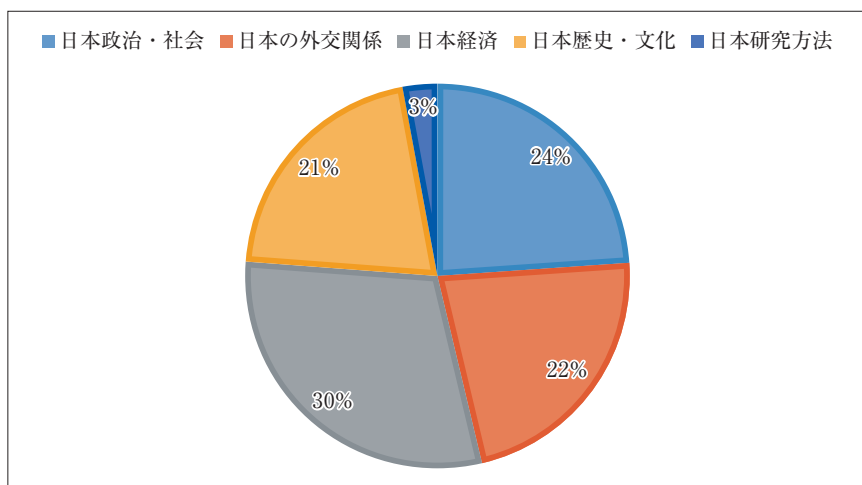


図1 東北アジア研究所の研究者による分野別の日本研究書（1993年～2018年）

日本研究に関する論文については、筆者の調査によると、東北アジア研究所の学術誌である『東北アジア研究雑誌』（*Nghiên cứu Nhật Bản & Đông Bắc Á*）に1995年から2015年3月までの間に掲載された日本に関する論文は1567本で、このうち、約3分の1にあたる439本が日本の文化・歴史についての論文となっている（図2）。

日本の歴史・文化に関する論文についての具体的な内訳は図3のとおりである。

図3によれば、歴史に関する論文が最も多く全体の22.77%を占めている。続いて、教育、生活文化・習慣に関する論文が17.08%を占め、文学に関する論文が15.48%、言語に関する論文が13.21%、思想、法律、宗教に関する論文が11.38

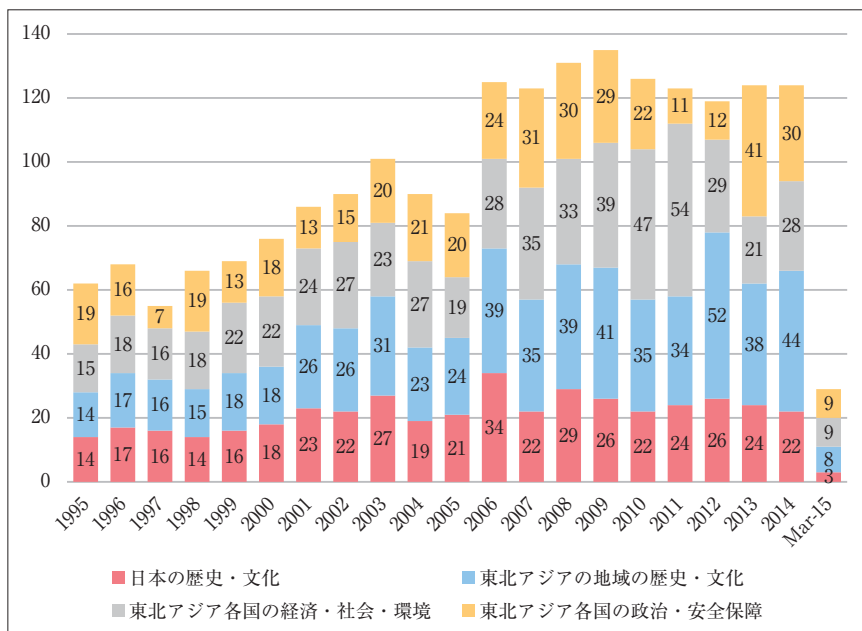


図2 『東北アジア研究雑誌』に掲載された日本の歴史・文化に関する原稿数（単位：本）

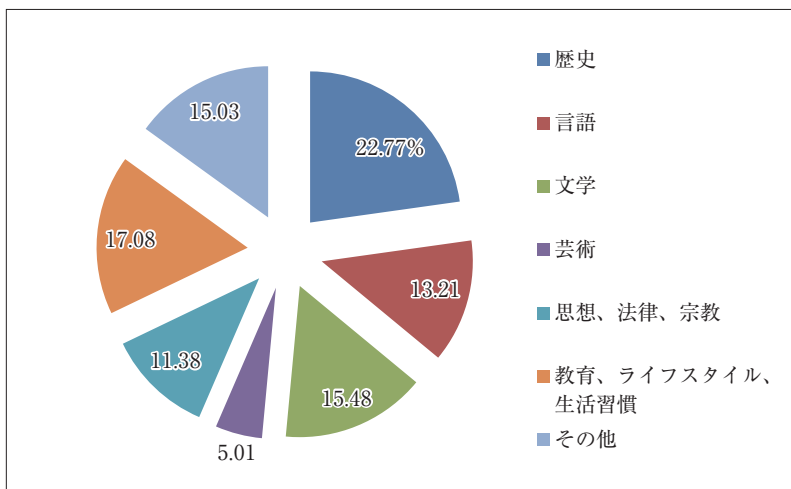


図3 日本の歴史・文化に関する論文の内訳

％、最後に芸術に関する論文が5.01％となっている。「その他」は、日越関係全般、文化交流、日本研究概観などに関する論文である。なお、『東北アジア研究雑誌』に掲載されたベトナム全国の日本研究者による論文のうち、東北アジア研究所の研究員による論文はその30％以上を占めている。

3. ベトナムにおける日本研究の課題——東北アジア研究所のケース

このように、東北アジア研究所の事例から考察すると、ベトナムでは、この30年近くの間に日本研究が急速に発展してきたことがわかる。

まず、研究員数は当初の10名未満から、現在までに3～4倍余り増加した。これは東北アジア研究所の場合に限るものの、ベトナム全国の日本研究者の数を見ても、数百名に増加している。

日本研究の内容も、明治維新、日本労働運動や高度経済成長についての研究から、より範囲が拡大され、現在は歴史、文化、宗教、政治・安全保障、外交関係、ソフトパワー、経済社会、政党政治など、日本に関してあらゆる分野をカバーしている。また、それぞれの研究は日本においてすでに起こった問題を考察し、その問題を解決した日本の経験を学び、ベトナム政府に提案する手法から、課題の中期的予測（5年～10年）や長期的予測（10年～20年）を行う方法に変化してきた。さらに、文化産業、ソフトパワー、Society5.0社会やIoT産業、日本の再生エネルギー開発モデルなど、ホットな話題についての研究も多くなった。

政府に直属する諮問研究機関として、東北アジア研究所は、日本政府の政策を研究するだけでなく、日本の文化、日本人の価値観やコミュニケーションパターンなど、基本的な文化研究も行っている。これらの研究が広がり、また深まることにより、ベトナム人の日本についての知識や日本人への理解を高めることに貢献するだろう。

一方、30年に亘るベトナムにおける日本研究は、今、新たな課題にも直面している。

第一の課題は、ベトナム人研究者の日本語能力がまだ高くないことである。第三世代（30代、40代）の研究者は日本語が堪能な者が増えているものの、第一世代（70歳以上）と第二世代（50歳以上）のほとんどの研究者は、ロシア語か英語を用いて日本研究を行っている。そのため、すべての世代のベトナム人の日本研究者が自分の研究成果を世界に公開し、海外の日本研究者と日本語で意

見交換して交流するには一定の困難があると言わざるを得ない。

第二の課題は、研究に対する政府の予算が非常に限られていることである。そのため、日本の経済、社会や教育などの実況を研究するにしても、ほとんどの場合、日本で現地調査を行うことができず、日本政府や関連機関の公開ウェブサイトにアクセスしてデータや資料収集を行うのに止まっている。現地調査、インタビューやアンケート調査などができず、さらに経費に限りがあるため、日本で出版された文献・雑誌等の購入も難しい。

第三の課題は、研究員の数が依然として多いとは言えず、15年間ほど、東北アジア研究所の研究員数は全体で40名程度に制限されていることである。原因は公的研究機関が自由に研究員を採用できないことにある。研究の仕事を好み、研究能力もある者は多いものの、採用にあたっての国の基準がないため、これらの者を採用できるとは限らない。

第四の課題として、東北アジア研究所の最も重要な任務はベトナム政府の政策立案を補佐することであることから、多くの研究プロジェクトは政策立案に資する日本の政治、外交関係や経済に着目していることが挙げられる。そのため、日本の歴史、文化や文学などの基本的な研究は少なく、研究分野^{かたよ}に偏りがあると言わざるを得ない。これは、国家大学の人文社会科学大学をはじめとする大学での日本研究とは異なっており、大学の日本研究は歴史の研究に集中している。その結果、「経済研究が強いのは研究所、歴史研究が強いのは大学」という傾向に陥りやすいが、本来は研究所・大学共に研究分野のバランスを取ることが望ましいだろう。

最後に、第五の課題は、現在ベトナムにおける各日本研究機関間の交流が盛んに行われておらず、共同研究や共催セミナーなどの学術交流が非常に少ないことである。また、ベトナムでは、ベトナム人研究者による日本研究学会もまだ設立されておらず、日本研究関連で言えば、「日本語教師会」や2018年に設立された「日本語教育研究学会」しかない。

これらの課題は、ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所のみが解決できる課題ではなく、ベトナム全国の日本研究機関が取り組むべき課題とも言える。ベトナム政府の理解と支援を得て、第一世代と第二世代のベトナム人の日本研究者の知見と経験を基に、現在の第三世代の日本研究者の力を結集し、近い将来、上記の課題を解決して、ベトナムにおける日本研究が一層発展・深化するものと期待される。

参考文献

1. Nguyễn Văn Kim, Nguyễn Mạnh Dũng [グエン・ヴァン・キム、グエン・マイ・ズン], “Nghiên cứu Nhật Bản ở Việt Nam: Đặc điểm và khuynh hướng” [ベトナムにおける日本研究：特徴と傾向], *Tạp chí Nghiên cứu Đông Bắc Á* [東北アジア研究雑誌], số 2/2006 (62), tr.52-66.
2. グエン・ティン・ルック 「ベトナムにおける近年の日本研究の状況とその特徴」『立命館言語文化研究』21 巻 3 号、2010 年 1 月、53～60 頁。
3. グエン・タイン・タム、グイェン・チ・ツオン・バン、マイ・ゲエン・ゴック 「ベトナムにおける日本語教育と日本研究の動き」『日越交流における歴史、社会、文化の諸課題』国際日本文化研究センター、2015 年 3 月、249～258 頁。
4. ファン・ハイ・リン 「新時代におけるベトナムの日本研究」『世界の日本研究』、2015 年、69～79 頁。
5. Ngô Hương Lan [ゴ・フォン・ラン], “Nghiên cứu văn hóa Nhật Bản ở Việt Nam hiện nay: Khảo sát trường hợp Tạp chí Nghiên cứu Đông Bắc Á” [ベトナムにおける日本文化研究：『東北アジア研究雑誌』を通じた考察], *Tạp chí Nghiên cứu Đông Bắc Á* [東北アジア研究雑誌], số 5/2015 (171), tr.9-16.
6. Trung tâm Nghiên cứu Nhật Bản [ベトナム社会科学アカデミー附属東北アジア研究所日本研究センター], *Trung tâm Nghiên cứu Nhật Bản 10 năm xây dựng và phát triển* [日本研究センター 10 年 建設と発展], Hà Nội: Nxb Thống kê, 2003.
7. Phạm Hồng Thái, Vũ Thị Mai [ファム・ホン・タイ、ヴー・ティ・マイ], *Danh mục các công trình khoa học đã công bố tại Viện Nghiên cứu Đông Bắc Á* [東北アジア研究所から出版された著書・研究論文の統計・年鑑 (1993 年～2018 年)], Hà Nội: Đại học Quốc gia Hà Nội, 2018.

Japanese Studies in Vietnam: A Case Study of the Institute for Northeast Asian Studies

NGO Huong Lan*

This paper explores the situation of Japanese studies in Vietnam from when the two countries officially established diplomatic relations (1973) up to now, through a case study of the Institute for Northeast

* Vice Director of the Center for Japanese studies, Institute for Northeast Asian Studies, Vietnam Academy of Social Sciences

Asian Studies, Vietnam Academy of Social Sciences. The paper considers the development of researchers, the expansion of Japanese studies, the improvements in research methods, and the structure of the content of books and articles on Japanese studies. It also considers the rapid development of Japanese studies in Vietnam, as well as pointing out problems and difficulties which are yet to be dealt with.

Keywords: Vietnam, Japanese studies, Institute for Northeast Asian Studies